

北海道金融広報委員会主催の「金融教育に関する講演会と座談会」が七月二十九日、旭川グランドホテルでおこなわれ、教師らを中心に約七十人が参加した。最近、子どもたちの間で携帯電話を使ったウェブサイトに起因するトラブルが増加している。この企画は子どもたちがお金や金融・経済に関する正しい知識を持ち、自分の生活設計を立てるための力を培うことを目的に、日銀旭川事務所が中心となり旭川市内では初めて開催した。

講演は二題。日銀旭川事務所長の尾家啓之さんが「学校における金融教育の重要性について」、FP・生活経済ジャーナリストのいちのせかつみさんが「今、金融教育が必要なワケ」。尾家さんは金融広報委員会が取ったアンケートを紹介。その結果、①子どもたちの金銭管理は無計画であり、比較的早い段階からお金の管理や使い方について考えさせる必要がある②携

子どもたちにお金や経済に関する金融教育を

講演と座談会に約70人



活発な意見や活動報告があった座談会

ここ七、八年前から講演依頼が急激に増えてきたという。お金に関する認識は地域差が大きく、大企業のトップを多く輩出している北陸地方は金融教育に熱心と紹介。また、都会の若者より山村・離島の若者の方が親元を早く離れるため、お金に関する教育は早くからおこなった方が良いとアドバイスした。

参加者の中に教師が多いことを意識し、「金融教育をおこなう時はリアリティ（現実性）とサプライズ驚き」が重要。身近なものをテーマにした方が良い。また、農業高校などでは自分たちがつくった作物を学校祭などで販売しているが、これは最初から成功する仕組みになっている。生徒の将来を考えた場合、上手にいかない状況下でおこなうことも必要だ」などと、大阪弁で笑いを誘いながら話した。

その後、尾家さんをコーディネーター役に、いちのせさんや斉藤正広さん（北洋銀行経済調査室長）、松崎英司さん（旭川信用金庫地域貢献室長）、白崎美穂さん（日本FP協会道北地区支部長）、水谷千佳さん（北海道金融広報アドバイザー）ら五人のパネリストが金融教育について語り合った。



いちのせさんの講演は会場の笑いを誘いながらおこなわれた

帯電話のウェブサイトからトラブルに巻き込まれる可能性があるため、留意事項を早めに教えておく③「お金はコツコツ働いて貯めるもの」の割合が中学生（七五％）より高校生（六六％）の方が低くなっている。働くことの意義を考え、幅広い職業観の形成を促す④消費生活を送る上で必要な基礎知識が必ずしも十分ではない、などと分析。学校教育における金融教育の必要性を語り、「金融教育は金儲けの方法とか、単なる知識の学習ではなく、社会の中で生き抜く力となるもの」と強調した。

いちのせさんは「二十年前この仕事を始めた時、金融教育について講演を頼まれることはほとんどなかった」と前置きし、昨年は幼稚園から大学まで約四十カ所で講演をおこなうなど、